

乳幼児教育の質の向上研修ニュース

発行日 平成29年1月26日
発行者 舞鶴市健康・子ども部

10月21日 タンポポハウスの公開保育を実施しました。



昨年に引き続きタンポポハウスにおいて公開保育を実施し、神戸大学大学院准教授北野幸子先生よりご指導をいただきました。

昨年同様いろいろな素材が準備され、子どもたちがそれぞれイメージしたものを作って楽しむ姿があり、更に絵具等を使って染め遊びや色を塗って楽しむ姿がありました。また、1、2歳児クラスでは、寒天や小麦粉、紙粘土などを使った感触遊びを楽しみながら、保育者とやりとりしたり、見立てて遊んだりする姿が見られました。

環境の構成、空間（広さ、位置など）の使い方、保育者の遊びへの見通しなど多くの学びある公開保育となりました。

参加園

永福保育園	うみべのもり保育所
岡田保育園	中保育所
さくら保育園	西乳児保育所
昭光保育園	
タンポポハウス	倉梯幼稚園
平保育園	三鶴幼稚園
なかすじ保育園	
東山保育園	
八雲保育園	
ルンビニ保育園	

描くこと、作ることが使うことに段々つながっていくことが大事である

塗る楽しさだけで終わらない、作る楽しさで終わらないことも大事 ~北野先生のコメントより~

<1、2歳児～感触遊び～>

寒天は、いろいろな色があり透明なコップに入れて、ジュースやアイスクリームに見立てて遊ぶ姿がありました。おもちゃのガス台のところ何かに見立てて遊ぶ表情は真剣そのものでした。どんぐりを片栗粉粘土に混ぜたら…と自分なりに考えたことをやってみようとする姿もありました。

北野先生より

◎やりたいことがあると集中している。反対にやりたいことがなくなったら（遊びが）終わってしまう。保育者が子どもが集中してしていることに気付いていることに意味がある。

◎集中しやすい空間ではあるが、人数を考えるともう少し広い方がよい。

◎少し意識して子どもの言葉に対し保育者が「モグモグおいしいね～」などの言葉をかけるとよい。



<3、4、5歳児～段ボールでの遊び～>

数人の子どもたちが、段ボールで自分たちの作りたいものをイメージして作ろうとしていました。5歳児の部屋では、ベッドや病院など作ろうと段ボールで工夫する姿が見られました。

北野先生より

◎段ボールは居心地よく、よい素材。

◎段ボールで病院を作ったりいろいろな発想が見られた。ひとつひとつの距離が近すぎるので、もう少し空間があればと感じた。そういう意味でもどンドン外に出れば広がると思う。

◎ひとつの部屋でしてしまうとどうしても小さくなってしまう。

外でやると開放的になって動きもダイナミックになり発想も豊かになるのではないかな。

◎芝生の上に段ボールを置いたり、土の方にも置いたりすると大きな段ボールを使うこともでき、病院とか家とか機能も明確に区別がつき、見立てもイメージも広がるのではないかな。



<3、4、5歳児～絵の具遊び～>

自分なりにイメージを持ち、絵具を使って段ボールに色を塗ったり、色水を作って染め遊びを楽しんだりしていました。

北野先生より

◎描くこと、作ることが使うことに段々つながっていくことが大事である。塗る楽しさだけで終わらない、作る楽しさで終わらないことも大事。

◎感触遊びから、作って機能みたいなものを想定しながら使えるようになってほしい。

◎見立てごっこ（病院や家、ご飯食べるところ）ともっとつながるとよい。



公開保育カンファレンス

空間を狭くすれば子どもがよく見えるというものではないので、
空間と機能の使い方を考えるとよい

～北野先生より～

【保育者の関わり】

◎保育者自身の空間や素材の使い方、遊び方がまじめなので、決まりごとは事前の予測でもっと少なくしていてもいいかもしれない。

◎遊びは“こうしなければならぬ”“こうして遊ぶ”と決まっているのではなく、子どもがどう遊ぶか、どう使うかを見て考えていく。選択の余地をつくっておく。

◎保育者の予測と違うことを子どもが見つけたら、それに対してどう広げてあげるかを考える。(ライブの中でどれだけ拾ってあげられるか)

◎保育者自身が「今日は楽しかった」と思えるように楽しむことも大事である。保育者が楽しむ姿を見て子どもはまねをする。

【環境：空間、機能】

◎空間を狭くすれば子どもがよく見えるというものではないので、空間と機能の使い方を考えるとよい。

◎子どもの行動を制限しすぎてしまうと、外に出ていないと中で走り回るなど反動になってしまう可能性がある。



◎空間が途切れていると遊びが続きにくいので、つながりを意識した環境を設定する。

◎遊びをつなげるためには、片付けずに置いておく空間、明日も続きができる環境も必要である。

◎体育館とか大きなホールとかでする時と小さな部屋でする時とでは、全然遊びの展開が違ってくる。活動に応じて場所を選ぶ必要がある。

◎道具は出してきて使うのか、置いてあるのを使うのか、子どもがどう使っているか見て環境構成をするとよい。

10月20日 ドキュメンテーション グループワーク

4つのグループ(1グループ6～8人)に分かれて、ドキュメンテーション(0、2、4、5歳児)を元にグループワークを実施しました。今回も、遊び(保育)を発達の視点でとらえるために保育所保育指針から「第2章子どもの発達」を抜粋し、年齢発達を意識してもらるようにしました。見る視点を定めるためのワークシートを活用しながら意見交換し、更にドキュメンテーションを書いた保育者もグループワークに参加したことで、より具体的な議論を展開することができました。

書いた保育者もグループワークに参加した保育者も、お互いに学びのあるグループワークになりました。ドキュメンテーションを提供してくださった皆様ありがとうございました。

参加園

永福保育園	うみべのもり保育所
岡田保育園	中保育所
昭光保育園	西乳児保育所
さくら保育園	
タンポポハウス	橘幼稚園
平保育園	舞鶴聖母幼稚園
なかすじ保育園	
東山保育園	
八雲保育園	
ルンビニ保育園	



「〇〇ちゃんは今〇〇しているんだね」子どもが主語の話は多弁でいい
自分と違う解釈・判断を知ることが、自分の解釈・判断を作る基礎となる

～講評 北野先生より～

【質問①】

「異年齢活動のドキュメンテーションで発達の部分を書くこととすると難しい。どうすればいいのか？」

◎保育とは現象。絞り込む視点を持ってドキュメンテーションを書くことが大事。その時に一番伝えたいことを絞り込むことが大切。

◎保育は「3歳は3歳だけ」と年齢で隔離しない方がいい。4、5歳が離れている園舎に行ったことがあるが、見ての学びが少ない。

◎同じ〇〇遊びの中に3～5歳がいることもある。例えば、憧れ・模倣の対象として5歳児の姿を書く。そして、その年齢の育ちにポイントを当て、視点を定め、整理をする。

◎0、1歳は生まれてからの期間で0歳の大きい方と1歳の小さい方の発達が同じくらいのこともある。

【質問②】

「どこまで保育士が介入しているのか？」

こまで言葉かけをして手助けしていいの
か？」

◎プロジェクト型保育をやっていく上で、言い過ぎてはいけない。でも、何も言わなくていいのか？よいわけではない。

◎この子達は何でこの遊びが楽しいのか？洞察する。没頭して遊ぶ姿とつまみ食いの遊びの姿の違いは何か。続く遊びを観察して、そのおもしろさを知ろうとする時、多弁であってもいい。

◎「〇〇ちゃんは今〇〇しているんだね」子どもが主語の話は多弁でいい。◎スタートがどっちか？自分か、子どもか？「子どもが」本当にやりたいと思っているのか。子どもの気持ちの洞察をする。

◎ただ黙って見守るだけでは、育ちは出てこない。例えば0歳児が「カランカラン」という音が鳴っておもしろいと感じている。「おもしろい」とは言葉では言わないが、その気持ちを洞察することが大事。

◎何に興味を持っているのか、事例を提示していくこともよい。これもある、あれもある。こうかもしれない。漠然と持っている興味・関心を言語化する。自分自身も楽しむことで見えてくるかもしれない。押し

付けにならないようにしながら事例・アイデアを提示していく。

【ドキュメンテーションを書くために】
◎「事実と解釈を分けて書く」会話・行為と解釈を分けるトレーニングをする。

◎言葉、動き(事実)は議論の余地が少ない。解釈は議論の余地が広い。

◎事実に関してクリアに書く。受けとめ方は保護者に委ねる。判断に関しても同じこと。

◎何をどの順番に書くかを意識すると読みやすい文章になる。

◎実践を元にして語る。振り返ることを楽しんで欲しい。自分と違う解釈・判断を知ることが、自分の解釈・判断を作る基礎となる。



指導案について

遊びを目的化するのではなく、遊びは手段であり、経験である

～北野先生より～

◎指導案を使って園内研修をするとよい。他園の先生も使ってほしい。例えば、「ねらい」の部分の隠しておいて、「ねらい」までの文章を読んで、自分だったらどんなねらいを立てるか？

◎今こんな姿があるからこんな活動、こんなねらいにする。また、ねらいと保育者の配慮や関わりはどれだけあるのか。

◎1日保育していたら、(予想される)子どもの姿はいくらでも書ける。でも、そこは、ねらいを意識して書く。

◎反省や振り返りをする時、評価の観点やねらいに基づいて振り返る。テーマ・項目を絞り込み、あれもこれも入れない。

◎絞り込むことで間口が狭くなり、議論が深まる。いろんな援助があるが、それが的確か？ それは「ねらい」に沿っているかどうかで判断がしやすくなる。

◎評価の観点を書くことで、それが保育をする時どこに残っていて関わり方が変わる。

◎遊びは目的なのか、手段なのか。**遊びを目的化するのではなく、遊びは手段であり、経験である。その遊びを通して、どんな気持ちを持つか？どんな経験をするか？**(遊び＝経験主義の教育)。与えられた経験なのか、自らつかみとった経験なのか、遊びの中にどんな育ちがあるのかを意識する。

◎「○○遊びについて苦手な子が多かった。」という記述があった。与えられた遊びととらえられがち。そもそも遊びの選択は、何を意図してその遊びがあるのか、遊びを通して何が育って欲しいのかを意識して書く。

◎「○○遊びを楽しむ」だけでは遊びが

目的化しているように読めてしまう。その遊びを通して何が育って欲しいのかを考える。

◎なぜ、その遊びをしているのか？発達や育ちからこういう遊びをしているのか、子どもたちの情意がのっている遊びだからなのか、子どもの姿をよく見る。

◎言語化は難しいけれど、頑張っ書いてほしい。



10月28日 第1回 保幼小接続カリキュラム策定会議を開催しました。

『舞鶴市教育振興大綱』の基本理念「0歳から15歳までの切れ目ない質の高い教育の充実」のためには、保育所・幼稚園・小学校・中学校の連携は欠かせません。小学校から中学校への連携については、『小中一貫教育標準カリキュラム』が策定され、取り組みが進められています。保育所・幼稚園、小学校の連携については、『乳幼児教育ビジョン』基本方針のひとつでもある「2 保育所・幼稚園、小学校、中学校の連携の充実」においても、特に「(2) 乳幼児期の学びと育ちをつなぐ連携活動の充実」が重要と考えています。

そこで、年長児と1年生が年間を通じて連携活動が展開されるよう、また、教師と保育者が互いに学び合えるよう『舞鶴市保幼小接続カリキュラム』を作成し、各園・校に広めていきたいと考えています。

策定メンバー

区分	所属	役職等	氏名
学識経験者	兵庫教育大学大学院	教授	溝邊 和成(会長)
私立保育園 (舞鶴市民間 保育園連盟)	永福保育園	園長	森 宏昭
	岡田保育園	園長	北川 三和子
	東山保育園	保育士	堀江 智美
	さくら保育園	保育士	山本 倫子
私立幼稚園 (舞鶴市私立 幼稚園協会)	朝来幼稚園	園長	畠中 好野
	三鶴幼稚園	園長	岩江 吾郎
	橋幼稚園	幼稚園教諭	松本 多恵子
	ひばり幼稚園	幼稚園教諭	佐藤 みのり
公立保育所	中保育所	所長	緒方 睦子
	中保育所	保育士	藤村 万紀
公立幼稚園	舞鶴幼稚園	園長	棕本 有加里
小学校	由良川小学校	校長	岡本 明生(副会長)
	高野小学校	教諭	井ノ口美津子
	吉原小学校	教諭	高峰 真実

日時：平成28年10月28日(金) 15:30～17:30

場所：市役所 中会議室

内容：○策定に向けて経過、全体説明

○乳幼児教育ビジョン説明

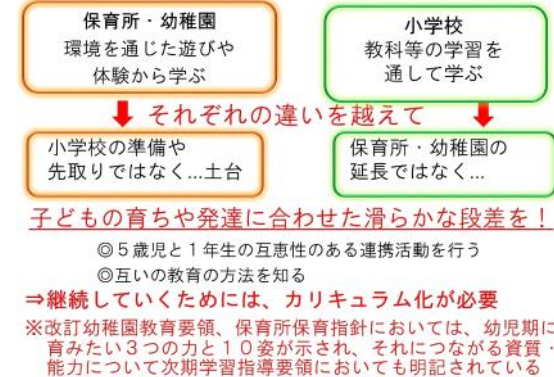
○小中一貫教育標準カリキュラム説明

○講義「改訂幼稚園教育要領、保育所保育指針と次期学習指導要領の内容について」

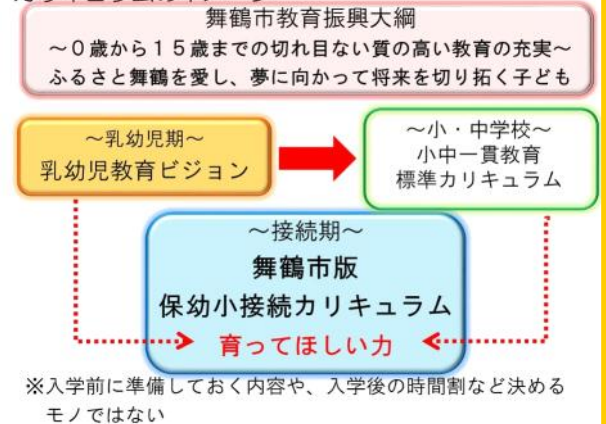
兵庫教育大学大学院 溝邊和成先生

○意見交換

策定の主旨



カリキュラムのイメージ



※私立保育園、幼稚園の各園長会より代表者を選出いただきました

10月29日 乳幼児教育ビジョン講演会「幼児期から小学校へ～学びを育む環境～」を実施しました

6月に引き続き乳幼児教育ビジョンを多くの方に知っていただくために、保育所・幼稚園の先生をはじめ、子育て支援、放課後児童クラブの関係者や市民約100名のご参加をいただき、講演会を実施しました。

今回は、乳幼児期から小・中学校…更に家庭や地域への連携を中心にしながら兵庫教育大学大学院教授 溝邊和成先生に講演していただき、これから未来に向かう子どもたちにどんな力をつけていくべきか、乳幼児期、児童期それぞれの教育のあり方についても方向性を示していただきました。

日時：平成28年10月29日（土）13：30～15：30

場所：舞鶴市商工観光センター 4F 展示交流室

講演 「幼児期から小学校へ～学びを育む環境～」

講師 兵庫教育大学大学院 教授 溝邊和成氏

（舞鶴市保幼小接続カリキュラム策定会議会長）

参加園／校

岡田保育園	朝来幼稚園
相愛保育園	池内幼稚園
昭光保育園	シオン幼稚園
東山保育園	森の子ら幼稚園
やまもも保育園	大浦小学校
ルンビニ保育園	高野小学校
うみべのもり保育所	
中保育所	
西乳児保育所	

講演より

◎今10歳の子どもが20歳になった時、どんな仕事があるのか、ロボット、機械化、3Dプリンター、自動運転車等により今ある仕事がなくなっていくなされてい

◎今ある技術を学んでも役に立たないかもしれない…「〇〇になりたい」と言っても将来職業としてないかもしれない…このような世界で今の子どもたちはどんな力をつけていくべきか？

・生きて働く **知識・技能**

・未知の状況にも対応できる **思考力・判断力・表現力**

・学びを人生や社会に生かそうとする **学びに向かう力、人間性等**

【子どもの外側からの支援】

◎「学習指導要領」改訂の方向性

・「何ができるようになるか」「何を学ぶのか」「どのように学ぶのか」

・アクティブラーニング（主体的な学び、対話的な学び、深い学び）

◎幼稚園教育要領（保育所保育指針）改訂の方向性

・遊びを通しての総合的な指導⇒環境を通して行う教育

・幼児期の終わりまでに育ってほしい力
①健康な心と体②自立心③協同性④道徳性・規範意識の基礎⑤社会生活との関わり⑥思考力の芽生え⑦自然との関わり・生命尊重⑧数量・図形・文字等への関心・感覚⑨言葉による伝え合い⑩豊かな感性

◎それぞれの教育課程の接続がまだ十分とは言えない。

◎乳幼児の生活体験も不足している。

◎すべての施設ですべての子どもに質の高い教育が求められている。

【子どもの内側からの支援】

◎子どもの身近な環境が大切

・物的：日頃よく目にするもの、よく触るもの、これまでに使ったことのあるもの

・心理的：安心、安全、気持ちのよいもの、好きなもの

◎子どもが持っている道具（子どもの身に備わっているもの）

[例] 朝顔の葉を見て…「ざらざらしてる」「ほんとかや」触って対象を理解し表現している⇒触感、認証、共通理解、協同

[例]朝顔の青いふくらみを見て…「トマトできてる」過去に見た青いトマトを知っていて重ね合わせている⇒諸感覚（五感）、身体感覚、表現

◎子どもの遊びは、まさに主体的で能動的なプロセスと結果から成り立っている。（会得、体得、納得）

◎環境を構成する

・先生と子どもの知恵比べ…先生が準備した環境通りに遊ばない。

・子どもがどのように見立てて自分のものにしていくか（学びの芽生え）

[例]泥だんご…泥水から土を取り出してみる 土へのアクション⇒構成物をとらえる、におい、粒、大きさ、色で分類する、特性をとらえる。

◎地域（特に高齢者）とつなぐ

子どもから高齢者、高齢者から子ども、高齢者も学ぶ、お互いに学ぶ。

子どもの「からだ」と「かお」を観る 子どもの「言葉」を観る 子どもの「行為」を観る

～溝邊先生講演より～

【先生の綴り箱】

◎綴り箱とは…子どもの表現（言葉・姿を集積した子どもの学びの履歴のこと。

◎保護者と一緒に書くもの、先生の書いたもの、子どもが書いたもの等子どもの記録になるようなものや、ラーニングスケッチを取り入れた指導案などいろいろな方法がある。

【何を書くのか】

◎子どもの「からだ」と「かお」を観る

・思考・感情を表す「からだ」と「かお」：頭をたてにふる、頭を抱える、肩をすばめる、万歳する、飛び跳ねる、スキップする、抱きつく、眉をひそめる、聞き耳をたてる、目をぱちくりさせる…

◎子どもの「言葉」を観る

①理由付け、論理の展開：接続詞「だから」「でも」…

②対象認知：形容詞「大きい」「丸い」「嬉しい」「楽しい」…

③現象説明：動詞「～になった」「できた」「～になる」…

④オノマトペによる表現：「つつる」「さらさら」「ガツンと」…

⑤例え、比喩表現：「～のような」「まるで～みたい」…

◎子どもの「行為」を観る

・対象理解、仮説検証、理解定着、納得
・行為の連続性＝思考の連続性：繰り返す、やり直す

・距離感・親密度：親しんでいる、遠い、近い

◎子どもを理解するためのスキル

①なってみる、同じことをする（思考の順序の確認）

②子どもの背後から視線をたどる

③横からみる

④カメラとメモを持つ（思考系列の記録）

⑤言葉を繰り返す（思考の意味確認）

⑥体に触れてみる（思考、表現時の情的高揚の確認）

⑦言葉をかける（心を寄せる：「なぜ」「それで」で確認）

◎子どもは人と交わることによつてのみ人として育つ。

◎学び、育ちのデザイン（カリキュラム）は子どもの事実から始まる。

◎出会い、つながりの用意こそ教育、保育の行為の原点である。

